

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2874003599		
法人名	株式会社 サザンツリー		
事業所名	グループホーム・サザンツリー		
所在地	兵庫県姫路市飾西330 (電話) 079 - 266 - 2726		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年 2月18日	評価確定日	平成21年 3月 9日

【情報提供票より】(平成21年 1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 11, 非常勤 10人, 常勤換算 17人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	26,250 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,120 円		

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護 1	10	要介護 2	5
要介護 3	2	要介護 4	0
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 82.6 歳	最低 71 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さかい病院、なべたに内科クリニック、つだ歯科
---------	------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームサザンツリーは、造り酒屋の酒蔵が並んでいた跡地に建てられ、歴史を感じる地域に平屋建ての贅沢な建物と、庭には樹齢200年の楠や、みかんの木が落ち着きを醸し出している。シンボルとなっている楠から現代風に命名した素敵なサザンツリーの名前とともに、認知症介護の質にこだわる真摯でひたむきな姿勢がある。認知症介護にゴールはないとの位置づけも鮮明になされており、評価を活用して新たなゴールに向かってどのように取り組むか、苦闘しているという管理者の言葉からその意気込みが伝わってくる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の改善項目については、改善計画シートが作成されている。地域との結びつき、家族との交流等の4項目について、取り組む優先順位、改善目標、改善に向けた計画内容、期間、評価についてと、具体的な改善計画に基づく取り組みが進められ、着実に実践されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	各ユニット毎に、100項目という内容をパートの職員も含め、全員が分担して取り組みが行われた。自己評価の過程では葛藤もあり、苦労もあったが、確実にケアのレベルアップにつながったと自信に繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は原則2ヶ月に1回開催され、定例化している。構成メンバーは元自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、入居者代表からなる。運営者は運営推進会議のメンバーから多くの率直な意見を引き出し、サービス向上につなげていくことができるか、その明確な位置づけのもとで事業所が苦慮している内容も赤裸々に語られ、参加者からもそれぞれの立場から発言がなされている。今後の運営方法についてさらに模索が続いている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	前回評価の改善項目の一つとして、家族交流会を実施した。バス旅行と交流会の2回、ほとんどの家族が参加し、同じ思いをもつ家族同士の交流会は、次回が待ち望まれる程好評であった。機関紙「くすのきDAY5」も発行しており、家族からの記事を必ず載せている。新年号の家族からの投稿は家族の率直な気持ちが語られ好感もてる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	この1年、新たな取り組みとして、日課である散歩等ではあいさつに加え、『気軽に声をかける。』、『地域の行事にはなるべく参加する。』、『ボランティアを受け入れる。』、『毎週水曜日のゴミ収集日のネットのかたづけと清掃』などに取り組んできた。その結果、運営推進会議のメンバーからも地域に溶け込んでいると高い評価を得ている。さらに幼稚園児童との交流など計画を膨らませている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要理念として「尊厳のある生活」、「見守る介護」、「家庭的な環境」、「笑顔あふれるホームに」の4項目と、「地域社会との交流を図ること」を掲げ、事業所の指針としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行っているが、子守唄的では意味をなさないと戒め、ゆっくり、確認しながら、日々実践できているか問いかけながら、こだわりを持って唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	メイン通りの駐車場には掲示板が掲げられホームの行事案内がひときわ目にとまる。公民館のふれあい喫茶、盆踊り、秋祭りへの参加、ボランティアの受け入れ等、多彩な交流に、地域貢献として毎週1回、生ゴミ収集日の後片付けを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については真摯に受け止め、事業所運営の指針の一つとして位置づけている。自己評価は全職員が分担して取り組んだ。その過程で、ケアのレベルアップに繋がったことが確認できている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、元自治会役員、民生委員、家族、入居者、地域包括支援センター職員からなっている。報告や情報交換が中心となっているが、認知症介護の実態を理解していただき、改善に向けた取り組みにつなげていきたいとの思いがある。</p>		<p>外部の方々の目を通して、積極的にサービス向上に繋げたいとする位置づけが明確になっている。運営推進会議のメンバーからいかに率直な意見をもらい、活かしていただけるか、運営方法について新たな突破口を見つけたい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>従来より市町との関係づくりは、広報誌「くすのきDAYS」を届けたり、必要な問い合わせは行っているが、より具体的な連携は進んでいない。</p>		<p>市町は、地域密着型サービスの指定権限を有しているだけに、事業所の運営や現場の実情を把握してもらうことが必要である。あきらめずに積極的に情報提供を行い、継続して関係づくりに取り組むことを期待する。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が面会に訪れる機会が多く、本人の暮らしぶりや健康状態を目の当たりにしていただき、金銭管理などきめ細かいやりとりを心がけている。2ヶ月に1回の広報誌「くすのきDAYS」を発行し、レクリエーションフォト(写真)とともにレクリエーションの様子も伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族交流会を2回実施した。ほぼ全家族が集ったバス旅行は、次回が待ち遠しいと好評を得ている。事業所での交流会も和気あいあいと楽しく過ごし、気軽に意見を出せる雰囲気づくりに留意している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の自己都合による退職時には利用者への説明が行われ、引き継ぎの期間もと、ダメージを少なくする配慮に最善の努力をしている。退職した職員は退職後もホームを訪れ、利用者との交流を楽しんでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、認知症介護の実践を通じて職員の育成の重要性を認識している。外部研修には積極的に取り組み、伝達研修も充実している。職員は認知症ケアの質向上にとりわけ関心が高く、技術や知識を吸収し身につけていきたいとする積極的な姿勢がある。</p>		<p>運営者は「事業所は人なり」と捉え、職員を育てる意識が高い。それに応えるように職員のもっと学びたいとする意欲と意思がマッチしている。それだけに実務に支障を来さないように工夫が必要であるが、計画的な内部研修を確保する取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホームの連絡会が発足し、役員を順番に担いながら、職員の交流、認知症介護の研修、実習研修等、交流の機会も増えてきている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>年末から3名の入居者があった。それぞれ家族の事情や都合もあり、やむを得ず、すぐに利用になったケースもあったが、家族、ケアマネジャーからの情報提供、自宅訪問、デイサービス訪問等に加え、本人に寄り添いながら、家族との連携、入居者同士の声かけで安定した利用につながっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の支度、洗濯など日常生活の場面では支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働する関係として声かけが来ている。また、年長者である利用者から生活する中で教えられ、学ぶ関係も大切にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握する方法としてセンター方式を取り入れている。職員の観察力、コミュニケーション力の力量が問われるが、職員全員が利用者を総合的に見つめる目を養いながら、生活を支えるためのアセスメントに取り組んでいる。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前には、事業所ケアマネジャーと職員が自宅等を訪問して、本人や家族と面会し、思いや意向を聞き取っている。また、これまでのサービス利用については、在宅のケアマネジャーやサービス事業所から情報を得ている。入居後の様子を見ながら、本人や家族の思いを反映させ、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画作成後、職員は計画に沿ってケース記録を記載し、月1回モニタリングを行っている。月1回開催のカンファレンス時に必要があれば、計画の見直しを行っている。また、センター方式を取り入れ、入居者のアセスメントを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームとして、本人と家族の暮らしを守るため、多機能性を発揮し、個々の要望に対して柔軟な対応ができています。また、地域にも高齢者の共同生活事業所として受け入れられている。</p>		<p>今後は、認知症介護の専門性を活かして、事業所として地域住民等が求める多機能性にどのように対応し配慮していくかハードルを上げた取り組みを期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、薬等が切れる前に事業所が利用者の健康状況等を記載した情報提供書をもって家族同行の受診となっている。家族が都合で同行できない時や緊急時は職員が対応している。また、入居者の半数は、協力病院の往診が月1回ある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の事業所の対応について時間をかけて説明しているが、身体的に変化がある時などはその都度話し合っている。しかし、方針や生活の場であるグループホームとしての対応については共有までには至っていない。		本人、家族の意向、かかりつけ医、事業所の対応等について話し合う機会を作り、方針を共有するよう期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者の入居者に対する言葉使いや接し方の接遇指導が職員へ徹底されている。業務記録やケース記録等についても、家族にも開示できるように配慮された記載となっている。個人情報の取り扱いに関しては、職員から採用時に誓約書をとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者のペースを把握し、自主的な生活や活動ができることを見守りながら支援している。入居者の中に生活を明るくされるリーダーの高齢者がいて、他の入居者もその人を受け入れ、笑顔で思い思いの生活を職員のかかわりのもとで過ごしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の味付けや鍋洗いまで、それぞれの入居者が役割を持ち、家庭的な雰囲気の中で職員とともに会話しながら笑顔で調理を行っていた。また、食事時は和やかな雰囲気で楽しく食が進み、食後も和気あいあいな時間となっていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	菖蒲湯やゆず湯等の季節に合わせた取り組み等はできていないが、一人ひとりが入浴をゆっくりと安心して楽しめるようには配慮している。職員は丁寧な対応を心がけている。外出時は足湯などにも行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者自らがそれぞれの役割を理解し、自ら動き、生活されていた。また、相手を思いやる協力もあり、共同生活の中に笑顔と共に楽しさが感じられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が、カレンダーに毎日の散歩の記録を記入していた。また、近くのファミレスや喫茶店にも歩いて出かける事も多く、入居者の声として聞けた。外出時には、地域の人と挨拶を交わして交流し、小学生のマラソンを応援することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているも、運営推進委員や家族からの意見を聞き取り、玄関の鍵はかけていないが門扉は施錠している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>救急車も2分で到着する姫路西消防署の飾西出張所が近くにあり連携している。年1回の避難訓練・年2回の防災機器の点検を実施している。また、マニュアル表を備えている。</p>		<p>夜間等職員の人数が少ない時の避難訓練の実施が望まれる。また、災害時は地域住民の協力が大きな力として期待されるため、運営推進会議から紹介もある姫路西消防団白鳥分団への具体的な働きかけを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事量、水分量、体重の増減等を記録し、健康管理を行うとともに、献立も栄養のバランスを考えて工夫している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物全体が平屋で、木材の使用により落ち着いた雰囲気がある。共用空間もやさしい日差しの明かり取りがされ、入居者が共同で作った落ち着いた感じのある貼り絵等が飾られていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理ダンスとカーテンは共通だが、思い思いの家具などの持ち込みにより個性のある居室となっている。また、ゆったりとしたスペースで家族や来客と話ができるソファ等も置かれ、くつろいだ生活の雰囲気が感じられた。</p>		

 は、重点項目。